

Axisライセンス

ユーザーマニュアル

ライセンス管理

My Systemsのライセンス管理では、サブスクリプションベースのライセンスやハードウェアに紐づくライセンスなど、さまざまなライセンスタイプを扱うことができます。AXIS Camera Station 5、ACAPアプリ、2N製品のライセンスを除く、ほとんどのAxisアプリケーションのライセンスを管理できます。

My Systemsにおけるライセンス管理の詳細については、help.axis.comをご覧ください。

ライセンスの種類

サブスクリプションライセンス - サブスクリプションライセンスは、継続的に更新され、サポートされるアプリケーションを提供する、時間ベースのライセンスです。ライセンスは、アプリケーションに応じて1年または5年間有効です。このライセンスは特定のユニットやサイトに紐づけられていないため、組織全体で共有できます。

ハードウェアに紐づけられたライセンスとハードウェアに紐づけられた拡張ライセンス - ハードウェアに紐づけられたライセンスは、サーバーや装置などのAxisハードウェアに紐づけられます。通常はハードウェアにあらかじめ読み込まれており、拡張ライセンスを購入してライセンスを増やすことができます。このライセンスはハードウェアの有効期間中に有効であり、ほとんどの場合、組織内の別のハードウェアに移動することはできません。

アップグレードライセンス - 既存のライセンスを1回アップグレードする場合に有効な、特別なライセンスです。

組織にシステムを登録する

アプリケーションのライセンスを取得する前に、組織に登録する必要があります。

組織とは、法的実体であり、ユーザーとAxisのデジタル的關係です。組織は、アプリケーション、装置、ライセンスの所有権を定義します。組織とは、接続されているライセンスを所有している組織のことです。組織は、単一のサイトの場合もあれば、多数の地理的な場所を持つ大規模な複数サイトの設置の場合もあり、その中間の規模の場合もあります。ユーザーは、システムの管理者やアクセス者、ライセンスの管理者、経費の責任者など、特定のビジネスニーズや構造に合わせて複数の組織を作成できます。

新しい組織は、ソフトウェアアプリケーションやMy Systemsポータルで作成できます (mysystems.axis.comを参照)。

使用状況を報告する

登録後、アプリケーションは、AXIS License Managerにアプリケーションが使用するユニット数を継続的に報告します。アプリケーションによっては、ユニットは、たとえば装置、センサー、データの容量 (GB) などがあります。アプリケーションがオフラインの場合、AXIS License Managerに報告された使用状況が手動プロセスにより更新されます。

必要なライセンス数は、組織内のアプリケーションに接続されているユニット数と同じです。

アプリケーションの試用

多くのアプリケーションには、ライセンスを購入する前にアプリケーションを試用できる期間限定の試用期間があります。試用期間は、アプリケーションにもよりますが、通常30～90日です。

ライセンスの注文

すべてのライセンスはeライセンスです。注文が処理されると、1つ以上のライセンスキーが作成されます。各ライセンスキーには1つのライセンスタイプのみを保持できますが、任意の数のライセンスを含めることができます。ライセンスキーは、AXIS License Managerで引き換えない場合、作成から5年後に失効します。

My Systemsにおけるライセンス

ハードウェアに関連付けられたライセンス

組織でお使いのハードウェアを登録すると、事前に読み込まれたライセンスが自動的に有効になります。インターネットにアクセスできるシステムでは、特にアクションは必要ありませんが、オフラインのシステムでは、ライセンスを再同期する必要があります。

追加のライセンスが必要な場合は、拡張ライセンスを注文してライセンスキーを受け取ることができます。AXIS License Managerでライセンスキーを引き換えると、ライセンスがアプリケーションウォレットに追加されます。ライセンスを取得するには、ウォレットから特定のハードウェアにライセンスを割り当てる必要があります。

サブスクリプションライセンス

AXIS License Managerでアプリケーションのサブスクリプションを開始すると、ライセンスを注文してライセンスを取得する30日間の猶予期間があります。猶予期間中は、アプリケーションにフルアクセスできます。

AXIS License Managerでライセンスキーを引き換えると、ライセンスがアプリケーションウォレットに追加されます。

アプリケーションをライセンスするには、組織全体で報告された使用状況に基づいて、ウォレットからサブスクリプション年度にライセンスを割り当てます。サブスクリプション年度にライセンスを割り当てて、ライセンスがアクティブになる時期を指定します。

長期ライセンス

シームレスなサブスクリプションエクスペリエンスを実現するために、AXIS License Managerでは数年前からライセンスを割り当てることができます。

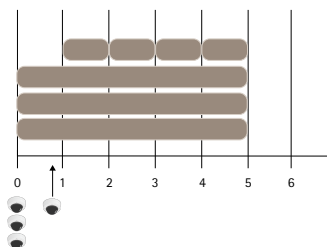
例:

アプリケーションに10台の装置がある場合、1年目、2年目、3年目、4年目に10個の1年間ライセンスを割り当てます。合計で、割り当て時にウォレットに40個のライセンスが必要です。

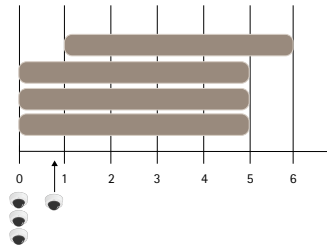
事前にライセンスを割り当てる場合、更新には何のアクションも必要としません。ただし、設置が増える場合は、新しいライセンスを注文、引き換え、割り当てる必要があります。

1年間ライセンスと5年間ライセンスの両方を異なる組み合わせで使用できます。最初の割り当ての後に装置を追加し、3個の5年間ライセンスを使用する場合、時間ベースのライセンスを混在させる方法の例を参照してください。

例:



4個の1年間ライセンスを追加し、ライセンスを同じ終了日に合わせる



5年間ライセンスを1個追加する

サブスクリプションの基本

年次レビュー

毎年、自動年次レビューが行われ、現在のライセンス状況と報告された使用量が監査されます。年次レビューでは、翌年の注文の推奨事項が提供され、サブスクリプション年が終了する60日前に開始されます。AXIS License Managerは、更新が必要になる60日前、30日前、7日前、1日前に自動的に通知します。更新時には、新しいライセンスの注文、引き換え、割り当てのための猶予期間が新たに提供されます。十分なライセンスが割り当てられている場合、年次レビュー通知には、今後12か月間は処置を講じる必要はありませんと記載されます。

含まれる増加許容率

Axisのサブスクリプションモデルでは、サブスクリプション期間中、すぐにライセンスを追加しなくてもアプリケーションのユニットを追加できます。年間増加許容率は、割り当てられたライセンス数の100%です。このアプリケーションは、次の年次更新までライセンスされた状態に維持されます。次回の年次レビューで、その後のすべてのユニットにライセンスを割り当てる必要があります。

サブスクリプション年度中に100%を超えて増やした場合は、30日以内に追加のライセンスを割り当てる必要があります。Axisは不正使用を監視し、該当するお客様に通知します。すべてのお客様は、ライセンス無効化の前に情報や警告を受け取ります。

増加計画

サブスクリプション年度中に増加を計画している場合は、ライセンスを割り当てる前に、AXIS License Managerで現在の [Reported usage number (報告された使用数)] を変更できます。計画ユニット数を [Current need value (現在必要な値)] に入力し、割り当てるライセンス数を決定します。

ユニットを削除することもできます。ただし、すでに割り当てられているライセンスはアクティブなままで、ウォレットに戻すことはできません。

スタッカブルライセンス

クラウドストレージのようなアプリケーションの中には、スタッカブルライセンスが必要なものもあります。1ライセンスで標準仕様のデバイスを使用できますが、お客様のニーズによっては、より高い解像度や保持時間が必要になる場合があります。スタッカブルライセンスでは、ライセンスを追加して、より多くのリソースを必要とするクラウドサービスを有効にすることができます。

ライセンスの更新

サブスクリプションライセンスを更新するには、システムインテグレーターまたはディストリビューターに注文してください。

ライセンスキーの注文や引き換え、ライセンスの割り当ては、サブスクリプション年度中いつでも可能です。遅くとも、更新日から30日間の猶予期間中に新しいライセンスキーを注文する必要があります。猶予期間が終了する前にライセンスを更新しなかった場合、アプリケーションはライセンスなしになります。

補償

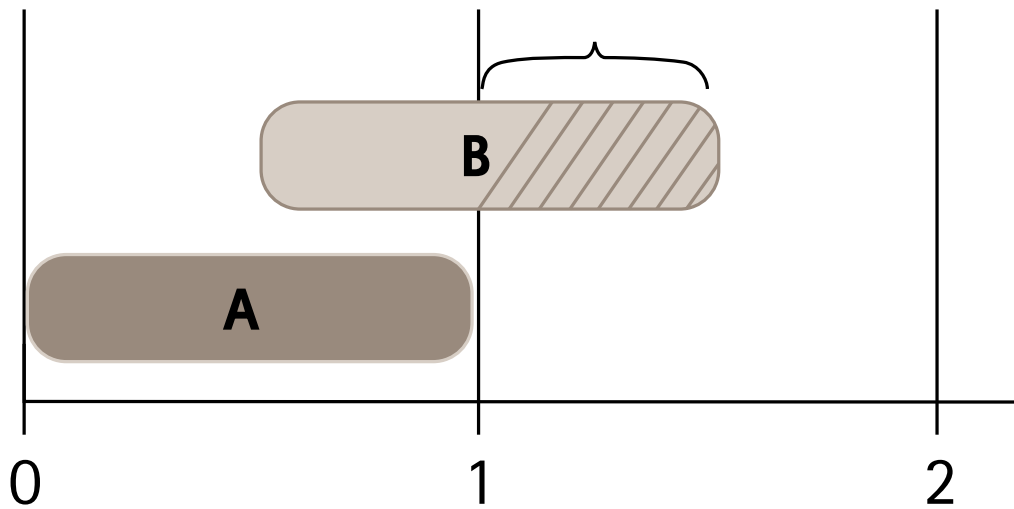
組織内のすべてのアプリケーションライセンスの更新日は同じです。サブスクリプション年度中にライセンスを割り当てると、そのライセンスは組織の更新日に合わせて調整されます。ライセンスの有効性が更新日と重なる場合は、当社はその重複している期間を新しい1年間のライセンスで補い、お客様のウォレットに追加します。5年間のライセンスについては、前年度の重複している時間について補償します。

補償を計算するために、新たに割り当てられたライセンスの重複している時間と量を使用します。

例:

アプリケーションAに割り当てられた1年間のライセンスは1月から始まります。この日付は組織の更新日です。6月に、お客様が新しいアプリケーションBを追加します。2年目の6月に終了するアプリケーションBに、1年間のライセンスを20個割り当てます。

更新日は1月のため、アプリケーションBのライセンスはさらに6か月間有効である必要があります。ただし、組織内のすべてのライセンスは更新日が同じであるため、アプリケーションBのライセンスは1月に更新されます。更新日の後の重複している6か月を補償するために、当社はお客様のアプリケーションウォレットに1年間のライセンスを10個追加します。

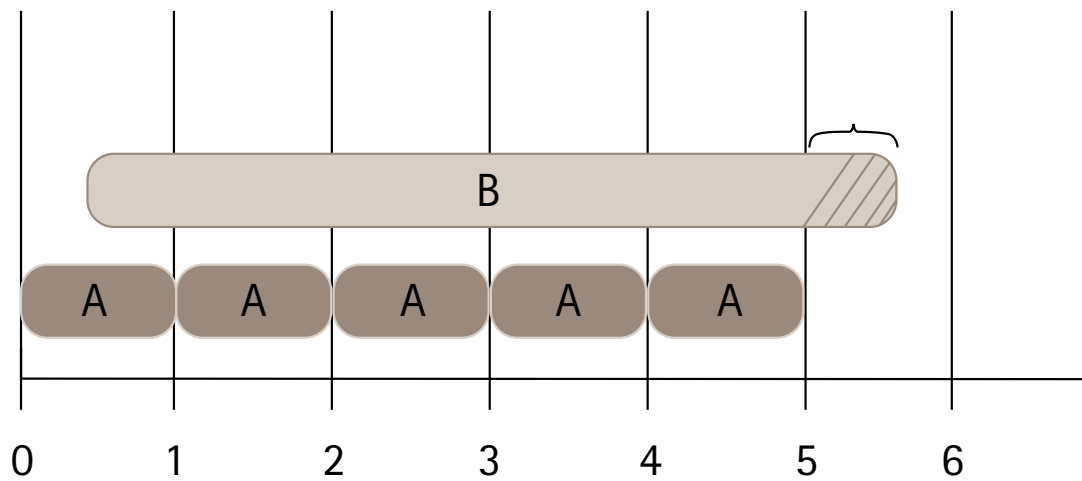


1年を超えるアプリケーションAおよびB

例:

アプリケーションAに割り当てられた1年間のライセンスは1月から始まります。この日付は組織の更新日です。6月に、お客様が新しいアプリケーションBを追加します。6年目の6月に終了するアプリケーションBに、5年間のライセンスを10個割り当てます。

更新日は1月ですから、アプリケーションAのライセンスは毎年1月に更新されます。6年度では、アプリケーションAとBの両方のライセンスが1月に更新されます。ただし、10個の5年間ライセンスは、さらに6か月間有効である必要があります。更新日の後の重複している6か月を補償するために、当社はお客様のアプリケーションウォレットに1年間のライセンスを5個追加します。



5年を超えるアプリケーションAおよびB

ライセンスなし

アプリケーションがライセンスなしになると、アプリケーションによって程度は異なりますが、機能が制限されます。

次のいずれかのイベントが発生すると、アプリケーションはライセンスなしになります。

- サブスクリプションを開始せずに、試用版が提供されない新しいアプリケーションをアクティブ化した場合。
- 試用期間の有効期限が切れた場合。
- 猶予期間が切れ、アプリケーションが期限内にライセンスされなかった場合。
- 更新の期限が切れた場合。

T10212241_ja

2025-07 (M4.2)

© 2024 – 2025 Axis Communications AB